

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2020年7月9日作成 第1.1版

研究課題名	Turner 症候群患者における TBS (Trabecular Bone Score) を用いた骨質の評価
研究の対象	2015年1月から2019年3月の間に当院婦人科に紹介となったターナー症候群患者120名のうち、以下の条件に該当する95名を対象とします。 1) 20歳以上のターナー症候群患者 2) エストロゲンを含むホルモン補充療法を行っている 3) ホルモン補充療法の開始年齢が分かっている 4) 当院で DXA 撮像をおこなっている
研究目的 ・方法	ターナー症候群は性染色体である X 染色体欠失による染色体異常で、低身長や早発卵巣機能不全など様々な症状を呈する先天性疾患です。女性医学的な面ではホルモン補充により骨量を獲得することで将来的な骨粗鬆症の予防を図ります。ターナー症候群患者の骨密度獲得に対するホルモン補充の開始年齢の影響を調べた研究では、骨密度の獲得はホルモン補充を始めた時期が遅れるほど本来の値を得られないことが分かっており、診断がつき、適応を満たした後は早期に治療を開始する必要があります。一方で、骨の強度は骨密度だけでなく骨質という骨の評価も重要であります。現在ターナー症候群患者の骨質の評価は世界的にも少なく、将来的な治療介入を見込み当院婦人科で治療した方の検査データを後方視的に（カルテを元に）解析したいと思いません。 骨密度のデータをもとに、骨質を評価し、エストロゲン補充の開始年齢と骨密度、骨質の関連性を評価、統計解析します。
研究期間	西暦 2019年4月1日 ~ 西暦 2021年12月31日
研究に用いる 試料・情報 の種類	情報：病歴、治療歴、検査データ等
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話または FAX でお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 婦人科（研究責任者）齊藤 真

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-242-2275